

町報 てんのう

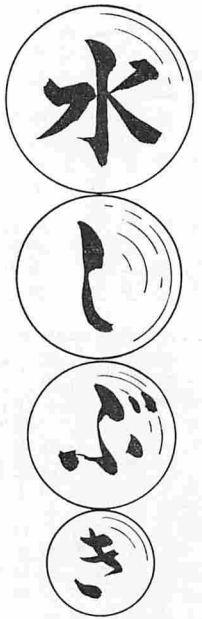
発行・秋田県天王町役場 TEL(天王) 1. 42. 135

編集・企画室 印刷・一日市印刷 TEL(018875) 2038

町のうごき

本籍数	4,609
本籍人口	14,848
世帯数	3,569 (3,558)
住民登録人口	13,676 (13,654)
内 男女	6,641 7,035

7月1日現在
()内は6月1日現在



出戸小にプールが完成

本町では、三つ目の学校プールが出戸小に誕生した。三月中に造成工事を終え、四月二十六日から基礎コンクリート打ちが行なわれ、七月十日に全工事が完成。長辺二十五m、短辺十一・八mのプールと半円形の幼児プールがお目見えした。同校では、初めての水泳シーズンを迎え、完成したばかりのプールで七月二十二日、全校生徒でプール開きを行ない、安全を祈願した。また、夏休みには毎日午前九時半から午後四時半まで、学校の日程に合わせて、全面開放している。子どもたちは、炎天下のもので、毎日元気に水しぶきをあげ、快適な夏休みを過ごしている。



▲「ガンバレー」「ソレー、もう少しだ」
ビーチ板を利用して競泳する児童たち

追分に乳児保育所

6月28日と7月18日に臨時議会

六月二十八日と七月十八日の二回臨時町議会が開かれた。六月二十八日に上程されたものは、追分小学校体育館改築と天王町職員会館建設の工事請け負いについての二案件で、原案どおり可決した。追分小体育館は三千八百十万円で大木建設(株)に決まり、工期は七月五日から十二月十五日まで。職員会館は一千四百三十万円、二田の

伊藤工務所が建設することになり、工期は七月一日から十一月三十日までとなっている。また、七月十八日に開かれた臨時町議会には、四十七年度の一般会計補正予算案など三案件が上程され、これを原案どおり可決、農業委員の推薦者二名を決め、閉会した。まず、町有地の処分については、追分乳児保育所の建設資金にあてるため、字蒲沼九二ノ一の一部(二万六千三百三十㎡)を三千七百八十一万八千円で、秋田帝国ヒューム(株)に売却

農業委員十四名決まる

新しい農業委員十四名が決まった。

任期満了に伴う農業委員の一般選挙は、七月七日に告示、定員十名に対し、十三名が立候補同十四日に投票が行なわれ、新農業委員が決まった。

また、学識経験者は七月十八日に行なわれた臨時町議会で二名が決まり、さらに農協、共済からの推薦者も決まり、十四名の顔ぶれがそろった。

新農業委員

(氏名、年齢、部落の順)

【選挙による農業委員】

三浦 義勝(34) 大崎

佐藤 幸孝(33) 塩口

目黒 久治(47) 羽立

菊地孝太郎(40) 児玉

佐々木 肇(41) 下出戸

古山 良藏(59) 上出戸

藤原 菊治(55) 二田

京谷金治郎(46) 天王

桜庭専太郎(61) 塩口

沼田藤治郎(58) 天王

【農協推薦】
鈴木久米雄(33) 羽立

【共済推薦】

海老沢勝治(65) 二田

【議会推薦】学識経験者

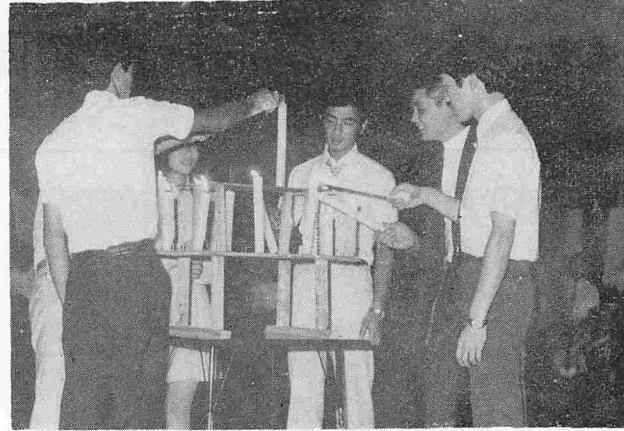
佐藤 栄藏(43) 二田

安田寅五郎(58) 羽立

町民総参加で
大会を盛り上げよう
8月20日(日)に
“町民運動会”

成人おめでとう

15日に成人式
ことしは269人



▲昨年のキャンドルサービスでのワンカット

町では、恒例の成人式をお盆の八月十五日、午後二時三十分から町公民館で行ないます。
この式は、次代をになうホープとして活躍が期待される若い世代のみなさんの新しい門出を祝福するものです。
当日は、キャンプファイヤー、記念撮影、グループ毎の話し合いなど、午後九時三十分まで、楽しく過ごしていただくことになっていきます。帰宅のためバスも準備してありますので、さそい合せて出席してください。
※この名簿からもれている方は、町公民館へお問い合わせください。

新成人の方々

- 【塩口】桜庭みよ子 米谷利 桜庭金工門 桜庭喜美夫 桜庭孝則 桜庭正明 桜庭永昭 桜庭辰巳 桜庭隆 桜庭祥子 丸谷八重子 木元富美子 桜庭
- ふき子 石川ユキ子 桜庭初子 米谷勝弘 桜庭浜子 桜庭幸也 桜庭悦子 桜庭正
- 【中羽立】目黒恵美子 菅生唯夫 菅生真知子 菅生スエ子
- 【羽立】鈴木優子 安田繁子 鈴木美穂子 鈴木美代子 鈴木

- 美智子 安田音彦 安田清美 安田孝悦 安田忠一 安田朝朗 石川勉 鈴木専門 安田美代子 安田真喜子 鈴木豊子 安田武美 安田みお子
- 【渋谷】米谷純子 石川ノリ子 菅生普 渋谷恵子
- 【天王】米谷志賀子 佐々木市子 金子聖子 柏崎万里子 戸田一子 菅生順子 金子しず子 米谷まさ子 佐々木郡子 京谷百合子 児玉サワ 石川るり子 山田忠則 石黒常雄 戸田孝市 加藤源一郎 村山菊村山久 加藤繁 児玉和夫 地雄二 児玉一秀 石黒秀晴 戸田一夫 金子八重 沼田ルミ子 沼田良子 沼田とし子 児玉良子 三浦あつ子 越後チタ子 内田ちづ子 森田恒雄
- 【江川】伊藤悦子 伊藤章子 伊藤優子 藤原ワキ子 藤原とも子 伊藤美代子 石黒美和子 伊藤美悦 藤原勝雄 伊藤三郎 太田幹夫 伊藤久秋 藤原秀政 伊藤義昭 伊藤真也 藤原広樹 児玉清 藤原正 伊藤弘 藤原ツギ子 伊藤昭子 伊藤志美子 藤原セツ子 伊藤由美子 藤原せい子 藤原まり子 児玉恵保子 伊藤良子 伊藤房子 藤原孝子 伊藤春男
- 【児玉】菊地セツ子 鈴木順子 児玉喜久男 松村春美 佐藤久男 松村正四 佐藤倫蔵 渡部保道
- 【大崎】三浦洋子 三浦ツネ子 三浦美子 三浦キミ子 三浦洋 三浦由則 木元新栄 三浦敏博 吉田竹巳 三浦利美 鈴木一昭 三浦猛 三浦あさ子 三浦きえ子
- 【二田】小柳月子 大関りゅう子 伊藤由紀子 目黒早苗 佐藤和子 田口知子 海老沢房子 鈴木久子 大友清美 下間紀子 伊藤良子 大関栄子 山美喜子 小黒明美 芳賀悦子 佐藤恵美子 船木忠志 渡部政一 三浦次男 大倉巖 渡辺比

- 登志 佐々木一郎 加藤功 三浦一憲 綱木充 加藤芳樹 児玉敏 浅野敬悦 小野礼一 畠山誠光 薄田芳則 沢畑通陽 沢畑明 真壁秀人 鈴木慶春 近藤司 渡部正敬 見上武美 武田吉孝 小柳邦子 伊藤信子 佐藤勇子 近藤美喜子 伊藤保子 斎藤ヒサ子
- 【鶴沼台】寺沢田鶴子 石垣勝 相良貞子 藤原幸子
- 【蒲沼】藤原時則 石井徳夫
- 【下出戸】佐々木裕美子 佐々木孝子 加賀谷辰雄 加賀谷栄 菊地千鶴子
- 【出戸新町】中山喜代志 佐々木義春 佐々木彦一郎 佐々木清隆 川村孝典 藤井郁子 出口悦郎 佐々木慶子
- 【細谷】菅原由美子 菅原昭一郎 菅原隆 菅原定信
- 【上出戸】渡部幸悦 菊地初子 菊地房恵 菊地政幸 渡部兼男 菊地富士男 菊地重喜
- 【追分西】佐藤明子 保坂敏郎 中田麻喜子
- 【追分】佐藤重三郎 吉越孝江 中川アサ子 原田弘子 村上マキ子 佐藤弘子 斎藤久夫 奈良弘幸 宇佐美新吾 木名瀬
- 【秋田電子】大山鉄雄 小林祐一 高橋光 新田富士雄 正克 三浦信昭 五十嵐重男 川孝悦 佐藤一男 鈴木由美 長内勉 千葉明美 中村重美 鈴田俊 小川基春 中村重美 菅原田鶴子 菅原美保子 桜庭陽子 池田光子 伊藤和子 佐々木あや子 佐藤たき子 安田ユエ子 八柳琴子 照井龍子 佐藤るみ子 佐々木優子 佐藤典子 遠藤美智子 佐藤ムラ子 鈴木千喜子 小野美江 八嶋フミ子 林房子 藤原祐子 藤原良子 近藤裕子 田中館文字 菅原和子 新林千代子 相沢妙子 信太みや子

「家庭の日」作文コンクール 入選作品

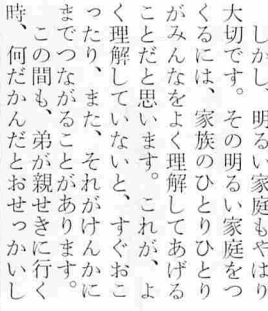
天王小六年 伊藤 桂子 学年は 46年度現在

毎月第三日曜日は家庭の日、わたしの家では、家庭の日といってもべつに何もしていません。いつもの日曜日と同じで、たいいてはみんなで田畑を手伝います。

でも、全然関係がないというのではありません。普通、家庭の日という、家族みんなが楽しんでる日だといっています。

でも、わたしにとっては違います。わたしは、父や母に手伝いをさせるのです。はじめは、いやだった仕事でも、終わってみると、みんなでこんなに汗を流してやったんだという満足感があります。ここにも家庭の日という、ひとつの大きな意味があると思います。

昨年の九月と十月にもこのような手伝いをしました。九月はブドウ畑へ行き、夕方暗くなるまでいて、帰りは畑から家までの坂道をみんなで「よいしょ、よいしょ」と、リヤカーをおしてきました。家に着いたら、みんな「ハア、ハア、ハア」いってました。また、十月の家庭の日は、田んぼで脱くく作業を伝いました。



刈り取った稲を機械の台へ乗せる仕事でしたが、機械の進むのが速くて、目がまわる思いでした。でも、やっぱりあの時も、家庭の日に手伝ってよかったなあ、と満足しました。

しかし、明るい家庭もやはり大切ですね。その明るい家庭をつくるには、家族のひとりひとりがあることをよく理解してあげることが大切だと思います。これが、よく理解してないと、すぐおこったり、また、それがけんかにつながることがあります。

この間も、弟が親せきに行く時、何だかんだとおせっかいして、

民具の紹介

エビスさまを祭るときの皿である。二つでひとそろい。左にはエビナスをのせ、右にはハタハタを一びきのせて、エビスママにそなえる。祭典行事用のワラ工品である。

第18回家庭バレーボール

好ゲームの連続

汗まみれで奮闘

第十八回家庭バレーボール大会が、七月十六日の日曜日(家庭の日)町公民館体育館と天中学校体育館の両会場で行なわれた。

参加チームは、男子九人制(一部)三、男子家庭バレーボール(二部)八、若妻(一部)八、主婦(二部)十の合わせて二十九チーム。

午前九時、天王中(男子)と公民館(女子)の両会場にわかれてゲームが開始された。この日の会場は、水銀柱もウナギのぼり、昼頃には三十度を越した。暑さと熱気でムンムンする中でゲームが進められ、選手、応援団は、ひたいから流れ出る汗をふこうともせずゲームに熱中していた。



▲主婦の部の決勝戦

天王(松) (右) — 児玉(左)の大熱戦

天王(松) — 児玉は、セットカウント一対一で迎えた三セット目、十対十、十一対十一、十二対十二と大接戦を演じ、ポイントするごとに応援団から「ヨイショ、ヨイショ」の声援。結局、このあと天王チームが三ポイントを連取して優勝の栄冠に輝いた。

今回の大会を振り返って、審判団では①今後、もっと参加チームの増加を図る必要がある。②渋谷部落の初出場と三軒屋チームの準優勝は意義がある。③乗権チームの多いのが目立った。④ホールディング(反則)を防止するため、平手打ちから組み手にするのが課題である。⑤各チームのレベルアップを図るため指導者、監督の養成を図る必要がある。——などのべた。

当日の成績は次のとおり

- 【男子九人制】一部
①天王 ②出戸新町 ③上出戸
- 【男子家庭バレーボール】二部
①天王ひばり ②三軒屋
- ③天王かもめ
- 【若妻】一部
①塩口 ②上出戸 ③二田新町
- 【主婦】二部
①天王松 ②児玉 ③天王竹

6日に

九人制バレーボール

数多くの参加を

町バレーボール協会と体育協会で、八月六日の日曜日、午前九時から天王中体育館で「九人制バレーボール大会」を行ないます。できるだけ多く参加してください。

チーム編成

選手、監督とも町内に住んでいることが第一条件で、年齢は

満十五歳以上。ただし、中学生の出場は認めないことになっている。

また、正選手は九名、補欠三名の十二名で編成するが、高校生、大学生は四名以内に限り、選んでいる。

男子チームは部落単位で編成し、一部落から数チーム出場できるが、その場合チーム名を明示することになっており、女子チームの編成は、部落単位とは限っていない。

申し込み

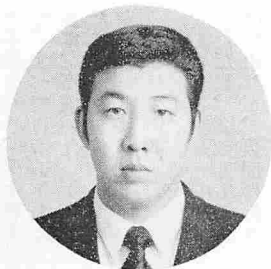
八月五日正午まで、メンバー(住所、年齢明記)と参加料五百円を添えて、町公民館菅生まで申し込んでください。

監督会議は、大会当日の午前八時半から会場で行ない、試合の方法などについて決める。

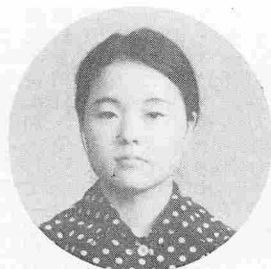
青年海外研修団員に

八月十四日からソビエトへ

堀井君 と 小林さん



(堀井君)



(小林さん)

八月十四日から二十七日までの二週間にわたって訪ソする「秋田県青年海外研修団員」がこのほど決まり、本町から二名が選ばれた。

この団員には、二田の堀井克見君(21)と小林ノリ子さん(21)が選ばれ、堀井君がモスクワコース、小林さんがシベリアコースに参加することになった。県では、立県百年記念事業のひとつとして団員を募集していたが、本町から十三名の応募があり、その後、町の選考委員会で三名に絞り、県でこの二人を決めた。

二人は、訪ソの間、同国の青年と親善交歓、県文化の紹介、各地の視察、見学などをしますが、これに先立ち、六月二十

「牛乗り」と

「クモ舞い」

七月七日、まだ梅雨のぬけ切らない夏祭りの伝統行事として知られている東湖八坂神社の例大祭が、雨の中で行なわれた。

悪霊退治と豊作豊漁を祈願するのがそのならわしで、祭典の中心は、午後五時半過ぎからの「牛乗り」と「クモ舞い」である。牛社から「ササノオノミコト」になぞられた人が、三日三晩精進したからだを黒牛の背にゆだねられて町を練り歩く。一方、船越水道の舞台ではクモ舞いが、トンボ返りなどでこれにこたえる。

例年だと、参拝や見物客が多勢なのに、ことしはあいにくの雨で少なかったが、それでも延べ約四千人もの人が見物していた。

しあわせがいっぱい

追分分館で第一号結婚式

追分分館(中田兼太郎分館長)では、地域の宿願であった分館ができがあり、第一号の結婚式が行なわれ、明るい話題となっている。

結婚式を行なったのは、秋田市の伊藤春雄さんと北野の長谷川たか子さんで、長沼の中泉鶴雄氏ご夫妻のばいしゃくによりめでたくゴールイン。

第一号記念として分館から記念品が贈られた他、分館長からお祝いのご品があるなど、一号にふさわしい結婚式とひろう宴に、若い二人はしあわせを誓い合って新婚旅行へと旅立った。

十一日からの三日間、県青年の家で、ソビエトの社会制度、日ソ関係について事前研修を受け八月十四日秋田港出発を目前にしてはりきっています。

交通安全祈願と 楽しい思い出を

七月七日の祭典に、大崎部落では「ボンデン奉納」を行なった。



町内を練り歩く子どもたち

これは、同部落の地域PTA(三浦治雄会長)が音頭をとり分館、交対協支部の協力で交通安全を祈願し、子どもたちに楽しい思い出を、毎年行なわれているもので、ことしで六年も続いている。

子どもたちは、水色のハンチンに豆しぼりのハチマキといういでたち。約三十人の子どもたちは、PTA役員や父兄たちのおはやしに合わせてミコンをかつき、部落内を一周。最後にスワ(諏訪)神社にボンデンを奉納した。

ただいま夏の交通安全運動の期間中です。事故防止にご協力を!

